

小坂の宝

小坂小学校には、「あいさつ」「くつそろえ」「だまってそうじ」などの「宝」がたくさんありますが、中でも、地域の方たちがいろいろな体験活動を指導してくださることが最大の宝です。

無形文化財「ちんこんかん」踊り、米作り、そば作り、防災訓練、料理教室、ソフトボールやキックベースボールなど、たくさんの方の貴重な体験をさせていただきました。小坂町のおとなの方がみんな私たちを見守り、育ててくださっているのを強く感じます。

私は、小坂の町が大好きです。地域の人たちみんなが仲が良く、一つのチームとなって協力し合っていることを誇りに思っています。温かさのあふれる小坂町で暮らせることに感謝するとともに、いつまでもこの町の良さを続けるために、私にもできることがあるのではないかと考えてみました。

一つ目は、いのこなどの地域の行事にすすんで参加して、小坂の伝統文化を大切にし、いつまでも続けていくことです。

二つ目は、町で出会った人みんなにあいさつをすることです。

小さなことですが、このことからがんばってみたいと思います。そして、みんなが家族のように仲良く平和に暮らせる小坂町であってほしいと思います。

小坂小学校は、今年3月に閉校します。そして、沼北小学校として新しいスタートを切ります。

地域のみなさん、今までありがとうございました。これからも私たちを見守ってください。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第12回 —

神田小学校に誇りを持って

神田小学校は、平成25年3月に、137年間の歴史に幕をとじます。私たち17名の6年生が、神田小学校最後の卒業生です。

私たちは、神田小の宝物をつくるために、地域の指導者から、日本最古の伝統音楽「雅楽」を教えていただきました。

雅楽の楽器は、見るのも初めてで、本当に自分たちが演奏できるか不安でした。でも、私たちは、「感動・笑顔・感謝」を合言葉に、気持ちを一つにして、夏休み、家庭学習、学校の休憩時間にも、自主練習に取り組みました。

「だいわ元氣祭り」「三原教育フェスティバル」「ひろしま自慢」のステージに立ったとき、お互いの音を聴き合い、心を一つにして神田小の音色を創りました。そのとき、私たちの演奏がよりよいものになるように指導してくださった雅楽の指導者や先生方、手作りの衣装を用意してくださった保護者の皆さんへ、感謝の気持ちを寄せ、神田の心を伝えたいと思いながら演奏しました。

5・6年生31人でやり切れたことは、大きな自信と誇りになりました。

この取り組みで学んだ「心を重ねること」を忘れずに、夢と志を持って、大和中学校・大和小学校で頑張ります。

「137年間、ありがとう神田小学校」

